

揃えることと 違えること

先週の「一友歓迎会」そして若者会での歓迎バレーボールと準備にあたっていただいた幹事の先生方本当にありがとうございました。私も含めて転入職員一同、先生方との距離がまた少し近くなったように思います。忙しい中ではありますが、時々そのような「リフレッシュ」の時間をもつことは日々激務の附属小の中にあつてはとても大切な時間だと思っています。これからも時々「斬新」でほっとできる機会を楽しみにしていますのでよろしくお願いします。

また、合唱の練習会では、先生方の揃った歌声に改めて感激させられました。音楽部の先生がたに改めて感謝します。

さて、今週からいよいよ子どもたちとの生活が始まります。

特に新年度の始めの大切さはみなさん理解していることと思いますが、それをもう少し具体的ににしたのがいわゆる「黄金の3日間」というとらえ方です。

子どもたちは新学期に向けて大きな希望と期待をもって登校してきます。なかでも1年間一緒に生活する担任の先生方への興味は絶大です。私も子どもの時には「優しい先生かな。怖い先生かな。宿題は多いのかな。」など子どもなりに思いを巡らせていたことを思い起こします。

その子どもの期待に応え1年間の道筋を示すのがこの「黄金の3日間」の目的です。

附属小は学年の団結が強いので、生活の上で共通理解すべきことはここでほぼ揃えることができると思います。(挨拶の仕方、廊下歩行、靴箱の靴の入れ方、傘立ての使い方など) これら揃えることについては、きちんと学年で共通理解のもと、継続して指導していくことが肝心です。

そして学級開きでは、その学級独自で大切にしていくこと、先生の経営方針を子どもに自信をもって伝えて欲しい、と思います。その先生の思いと子どもたちがこんな学級にしたいという思いを象徴したものが「学級名」になっていきます。

そして各学級では、同じ学年でありながら他の学級との「違い」も大切にしたいところです。

附属小は6月に公開を控え、聞き方・話し方の指導を中心とした学習習慣をはじめとして他の学校では1年間かけて育てていくことをこの一月ちょっとの間でまた子どもたちと創っていくことになるわけです。公開研究を参観にきた多くの先生方が「子どもたちの姿に驚いた」「どうすればこのような子どもたちに育つのですか」という感想をもつことにつながります。

ここに「6月公開」のもう1つのねらいがあるわけです。

揃えることと違えることを大切にしたい1年間のスタートに期待します。

(文責:副校長 手代木)